

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2023
8月号
No.766



スダチをプレゼントするすだち大使の松妃菜さん

マンスリーレポート 2

- ・すだち大使が「徳島の活鱧」とスダチをPR!
- ・農畜産物の適正な価格転嫁等の実現に向けた決起大会
- ・令和5年度徳島県梨消費拡大協議会総会
- ・令和5年産梨出荷協議会
- ・令和5年度徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会定期総会
- ・令和5年度第16回徳島県JA農産物検査員育成研修会
- ・第2回果樹部会「ナシ試験地視察および情報交換会」
- ・令和5年度LPガス担当課長・業務主任者会議
- ・JA美馬商品見本市で女性部員へPR
- ・県下JAで総合展示会など開催

旬の野菜でおうちごはん 8

- ・蒸し茄子の香味だれ

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 9

- ・その⑧ ～夏はスイカ～

交通安全のお知らせ 9

- ・特定小型原動機付自転車(いわゆる電動キックボード等)に関する主な交通ルールについて

トピックス 10

- ・営農コラム

マンスリーレポート

～徳島県産スダチの消費拡大～

すだち大使が「徳島の活鰐」とスダチをPR!

7月8日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、京都府京都市の大丸京都店にて開催された「徳島の活鰐(いきはも)」PRイベントにおいて、徳島の活鰐ブランド確立対策協議会と共にスダチのPRをおこないました。

地下1階の鮮魚売場で、すだち大使の桧妃菜さんが「スダチはお魚によくあいますよ。絞ったり、皮を擦り下ろしてお使いください」と声を掛けながら、徳島県産鰐の購入者100人にスダチ(3玉)をプレゼントしました。買い物客からは「スダチはとても爽やかで暑い夏によく使うので、とても嬉しい」との声が聞かれ、スダチの認知度も高く大変好評でした。



湯引き鰐の試食配布



スダチをプレゼントするすだち大使の桧妃菜さん



プレゼントの3玉入りスダチ

～JAグループ徳島など国や県に対策を要望～

農畜産物の適正な価格転嫁等の実現に向けた決起大会

7月18日、JAグループ徳島と県内農畜産関係者などは、徳島市のあわぎんホールにおいて「農畜産物の適正な価格転嫁等の実現に向けた決起大会」を開催し、生産者やJA関係者など約800人が参加しました。

大会は生産資材の高騰などで厳しい農家経営が続くなか、農畜産物への価格転嫁で持続可能な農業経営を実現することを目的に開催されました。

主催者を代表してJA徳島中央会の中西庄次郎会長(JA徳島農政協議会会長)は「苦しい農家経営が続いているが価格転嫁が進んでいない、適切な価格で販売できる仕組みを早く構築してほしい」と述べ、生産部会代表者も厳しい農業経営の実情を訴え、再生可能な施策の充実を求めました。

このほか、自民党総合農林政策調査会最高顧問の森山裕衆院議員が「将来を見据えた食料安全保障の確立について」と題した基調講演をおこない、消費者を巻き込んだ食糧安全保障確立の重要性を強調しました。

最後に、将来にわたり国産農畜産物の再生産が可能となるよう、コスト上昇分が適正に販売価格へ反映される対策を国や県に求めていく事と消費者の理解醸成や行動変容の促進を実践していく大会宣言を採択しました。



決起大会の様子



頑張ろう三唱を行う参加者

～徳島県産梨のイメージアップと販売拡大へ～

令和5年度徳島県梨消費拡大協議会総会

7月10日、徳島県梨消費拡大協議会(会長＝村上哲副本部長)は、徳島県JA会館において、徳島県内梨産地のJA担当者、徳島県、市場担当者、当県本部職員ら16人出席のもと「令和5年度徳島県梨消費拡大協議会総会」を開催しました。

同協議会は、徳島県産梨の消費拡大を促進し、梨生産農家の経営安定と発展を図る活動に取り組んでいます。

総会では、▽令和4年度事業実績▽令和4年度収支決算▽令和5年度事業計画(案)▽令和5年度収支予算(案)▽役員改選(案)が審議され、満場一致で承認されました。

なお、令和5年度事業計画の主な取り組みは以下のとおりです。

- 卸売会社と共催した量販店での販促活動の実施
- OFFICE DE YASAIによる梨のサンプリングの実施
- 県庁食堂や料理教室への提供によるPR
- 県内直売所と連携した販促活動の実施
- 新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどマスメディアを通じたPR



あいさつを行う村上哲副本部長



会議の様子

～梨出荷3,028トンを計画～

令和5年産梨出荷協議会

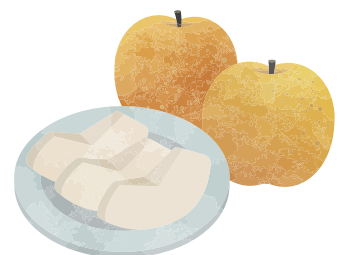
協議会総会終了後、「令和5年産梨出荷協議会」を開き、事務局の令和4年産販売実績と令和5年産の出荷計画について説明に続き、その後、各JA担当者から生産状況の報告がありました。県下の生育は概ね順調に推移しており、例年どおり7月下旬から初出荷を見込んでいます。また、各市場担当者からは市場情勢の報告と産地に対する要望などがありました。

なお、本年産の出荷量は3,028トン(前年実績比98%)を計画しています。

最後に、販売基本方針を確認し、「安全で安心な商品の出荷」「高品質および均一な出荷」「計画的で安定した出荷体制の確立」などの各重点項目に関係者一丸となって取り組み、出荷・販売に努めるよう申し合わせました。



会議の様子



マンスリーレポート

～知名度向上・消費拡大へ～

令和5年度徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会定期総会

7月25日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会（会長＝坂本雅彦県本部長）は、徳島県JA会館において、県内JA、徳島県、市町村、卸売市場、当県本部より関係者など30人出席のもと「令和5年度徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会定期総会」を開催しました。

同協議会は、栽培農家の経営安定をはかるため、徳島県産のスタチとユコウの消費宣伝活動に取り組んでいます。

総会では、はじめに主催者を代表して澤口佳史副会長（JA名西郡代表理事組合長）より「徳島県特産の『すだち・ゆこう』の消費拡大につながるよう取り組みを強化し、より効果的・効率的に事業を進めてまいります」とあいさつがありました。

議事については、▽令和4年度事業実績、▽令和4年度収支決算について事務局説明の後、橋口愉監事（徳島大同青果株式会社社長）による監査報告がおこなわれました。続いて、▽令和5年度事業計画（案）、▽令和5年度収支予算（案）、▽規約の一部改正（案）、▽「徳島すだち」の運用方法（案）、▽GI取得に伴う「徳島すだち」1kg箱のデザイン変更（案）について事務局より説明があり、審議の結果、議案は承認されました。なお、「徳島すだち」1kg箱の新デザインは出席者の投票により決定し承認されました。

令和5年度事業計画の主な取り組みは以下のとおりです。

- テレビやラジオ、新聞・雑誌などマスメディアを通じたPR
 - ・SNSの積極的活用、Instagram、YouTube等を利用した消費宣伝
 - ・料理家インフルエンサーによるプロモーション
- 企業などとのタイアップ宣伝
 - ・カボスとスタチのコラボイベントの実施、東京ガスネットワーク料理教室でスタチを使用したメニュー開発やコラボ教室の開催
- 首都圏飲食店等でのPR活動、外食関係等の業界に向けた販売促進
- 県内外の行政や教育機関と連携した食育活動

会議の最後には、令和5年度「すだち大使」に就任した平石静香さん、桧妃菜さん、中川かりんさんの3人が出席者に紹介されました。3人はさわやかなスタチをイメージした制服に身を包み、令和5年6月から2年間、県内外各地のイベントや各種メディアなどを通じて徳島県産スタチを積極的にPRしていきます。



あいさつを行う澤口佳史副会長



会議の様子



「徳島すだち」箱のデザインを確認する出席者



出席者にあいさつを行う新すだち大使



平石静香さん、桧妃菜さん、中川かりんさん（左から）

～基礎課程に全員合格！信頼される検査員へ～

令和5年度第16回徳島県 JA農産物検査員育成研修会

7月21日、徳島県JA農産物検査協議会（会長＝JA徳島市・井河勝淑営農経済部長）と当県本部は、徳島県JA会館において「令和5年度第16回徳島県JA農産物検査員育成研修会」の閉講式をおこないました。

本年度の研修会には、県内の7JAから9人が受講し、6月19日から7月21日までの延べ14日間で農産物検査員としての知識や技能、検査方法などの基礎課程を修了しました。

閉講式では、当県本部米穀畜産部の西川伸哉部長が「研修で学んだことを活かし、農家組合員・消費者から信頼をいただける検査員となるよう検査技術の向上を図ってください」とあいさつをおこない、9人の研修生全員へ基礎課程修了証書を授与しました。

講評では、同協議会の井上昭講師が「現場で経験を重ね立派な検査員になってください」と研修生を激励されました。研修生からは「農家生産者の期待に応えられるよう頑張りたい」「組合員の皆様に信頼される検査員になりたい」といった抱負が聞かれました。

今後、研修生の方々は現場研修を経て、来年にはJA農産物検査員として登録され、令和6年産米の検査からそれぞれの地域で活躍される予定です。



鑑定実習を行う受講者



米穀畜産部の西川伸哉部長が基礎課程修了証書を授与

～産地と情報交換し効果的な果樹生産へ～

第2回果樹部会 「ナシ試験地視察および情報交換会」

7月18日、徳島県農業技術普及連絡協議会（会長＝坂本雅彦県本部長）は、JA板野郡、JA大津松茂の担当者、徳島県、日本青果包装株式会社、当県本部など関係者21人出席のもと、第2回果樹部会「ナシ試験地視察および情報交換会」を開催しました。

出席者は、板野郡の徳島県上板果樹試験地でジョイント栽培試験の状況を視察しました。その後、同果樹試験場でおこなわれた情報交換会では、各産地のナシの生育状況やジョイント栽培状況、発芽不良対策試験、また雑草防止、除草作業の省力化に期待ができる防草段ボールの紹介等について、JAや農産園芸研究課、農業支援センター、日本青果包装株式会社、当県本部より報告がおこなわれました。特にジョイント栽培については、生産現場で指導を行う担当者から技術的課題に関して多くの意見が述べられ、活発な情報交換会となりました。



ジョイント栽培試験の視察を行う出席者



情報交換会の様子

マンスリーレポート

～JAでんき・LPガスの推進により消費者への快適生活提案へ～

令和5年度LPガス担当課長・業務主任者会議

7月6日、ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社（代表取締役社長＝崎山一誠）は、県下JAのLPガス担当課長や業務主任者など関係者27人出席のもと、徳島県JA会館において「令和5年度LPガス担当課長・業務主任者会議」を開催しました。

当会議は系統LPガス事業発展のための推進提案と消費者の信頼獲得へ向けた取組みなどについて周知を図るために開催しており、はじめに崎山社長が「今県内では令和6年4月の9JAによる合併への協議が進んでいます。本日は事業推進要領の説明や情勢報告等もありますので、今後の推進に役立てていただき、合併に向けてもJAと相談しながら事業を進めてください」とあいさつしました。

続いて、全農本所総合エネルギー部ガス課、全農中四国エネルギー生活事業所の各担当者からLPガス情勢・JAでんき情勢の報告、JAでんき家庭向け推進事例が紹介され、ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社の各担当者からは令和5年度LPガス事業推進要領、LPガス保安強化の取り組みなどの説明がおこなわれました。

また、令和5年度ガス器具統一キャンペーンの商品説明があり、最新ガスコンロやガス衣類乾燥機の特長などについて、ノーリツ、パロマ、リンナイの各メーカー担当者から紹介がありました。出席者は販売力アップに繋げようと熱心に耳を傾けていました。



会議の様子



商品説明を行うメーカー担当者

～「エコープマーク商品」や「くらしの宅配便」を紹介～

JA美馬商品見本市で女性部員へPR

7月19日、JA美馬とくらし支援部中四国エネルギー生活事業所徳島生活推進課は、美馬市協町の美馬市地域共生交流施設「小屋ベース」においてJA美馬商品見本市を開催し、同JA女性部員へ生活事業関連商品の紹介と利用拡大PRをおこないました。

この日、午前の部には女性部員20人が出席し、各社（大島食品工業株式会社、岐阜アグリフーズ株式会社、厚生産業株式会社、築野食品工業株式会社・築野ライスファインケミカルズ株式会社、大興産業株式会社、東洋羽毛工業株式会社）担当者からの商品説明がおこなわれました。その後、部員のみなさんは、それぞれの展示コーナーで商品を確認しながら、ゼリーの素や漬物の素、黒酢やこめ油などを使った試食や試飲をおこない風味や食味を確かめていました。また、使用方法を確認しながらスキンケア商品を試したり、寝姿勢圧測定も体験していました。

続いて、徳島生活推進課の佐藤職員が、JAが提供する宅配サービス「JAくらしの宅配便」の紹介や会員登録、注文の仕方などの説明をおこない、部員のみなさんはパンフレットを確認しながら熱心に耳を傾けていました。

なお、同見本市は20日にもJA美馬農業応援センターで午前と午後の2回、女性部員を対象に開かれました。

徳島生活推進課では、今後もこうした活動により、取扱い商品の認知度を高めるとともに商品の普及・利用拡大に努めてまいります。



各社の商品展示コーナーで食味などを確かめる女性部員



JAくらしの宅配便の説明を行う
徳島生活推進課の佐藤職員

～農作業の効率化を提案～

県下JAで総合展示会など開催

7月、県下JAにおいて総合展示会や感謝セール、農機・物流フェア、農機展示会などが開催されました。

JAでは、トラクターやコンバインなどの大型農機から、管理機・刈払機などの小型農機、中古農機、農作業に必要な農工具の展示や全農営農管理システム(Z-GIS)、JAでんき、住宅リフォーム相談、仏具の移動販売、シロアリ無料調査、空調服などの衣料品展示販売、県産飲料や肥料・農薬の特価販売など多彩におこなわれ、各会場とも来場者の姿が多く見られました。



JA徳島市北部営農経済センター農機・物流フェア(7/14～15)



JA里浦総合展示会
(7/4)



JAアグリあなん那賀経済センター感謝セール
(7/7～8)



徳島農機事務所西部農機SC農機展示会
(7/21)



蒸し茄子の香味だれ



▼材料(2人分)

千両茄子……………3本
 茗荷……………2本
 白葱……………1/3本
 青じそ……………2枚
 生姜、にんにく……………各1片

A { 濃口醤油……………大さじ4
 ごま油……………大さじ2
 酢……………大さじ1
 砂糖……………小さじ1

▼作り方



① 茄子は縦8等分に切って
 水に放ち、
 蒸し器に並べ
 強火で7分蒸す。



② 茗荷、白葱、青じそは
 千切りにして水に放ち、
 生姜とにんにくの
 みじん切りは
 Aに混ぜておく。



③ ①に②をのせる。

POINT

茄子の形を崩さない
 様に、がくのみ包丁で
 剥き除く。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
 ◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラ
 ジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグ
 ミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習
 会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー（姫路、加古川、明石の3店舗）講師／神戸市立長田区勤労
 センター、神戸市立西区民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など



その159 ～夏はスイカ～

◆初夏5月の鯛はマルボウズだったが、人を動かす仕掛けは秀逸◆

5月の下旬に、釣友と2人で高知湾内で開催された高知県知事杯の鯛ラバー釣り大会に参加した。結果は、マルボウズで釣果なしに終わった。しかし高知県の人を動かす仕掛けの観光対策は切れ目なく素晴らしいと感じた。人が動けば、エネルギーも消費するし、飯も食うし、お土産も買って帰る。抽選で、西島園芸団地のスイカとメロンのセットが当たったが、一番は、思い出という高知旅行を語り継ぐ話題を得たことだった。頭の片隅には、南海・東南海地震が起こったらどうしようかと心配もあったが、太平洋は、広いし、でかいし、水平線の真ん中に小さい漁船で浮かぶと、なんともいえない畏怖があった。

られることを心待ちにしている。どなたかいい脚本を書いて欲しいと願っている。

◆メロンやスイカ作りが難しい年◆

これだけ、ドカ雨のあとに高温乾燥が交互に襲ってくる天気だと、いくらハウスで栽培していても、生産者側の立場になると、割れも多くなるし、高糖度管理も難しい年であるが、消費者の立場では、夏にウォーターメロン（スイカ）をほおばると生き返る。待ち遠しい季節である。愛する妻が、毎回タッパーにサイコロ状に保管してくれている果実は最高にうまい。そういえば、Suicaのカードってどこ行ったっけ。確か昔、モノレール用に作った記憶があったが、久しく東京モノレールに乗車してないかも。スイカの夏が来たぜ。

◆高知県出身牧野富太郎博士の朝の連ドラと三好長慶の大河ドラマ◆

もう一つ、現在NHKの朝ドラ「らんまん」は、高知出身の植物学者・牧野富太郎博士がモデルである。毎日、全国放送で背景に流れる高知県の魅力は計り知れない。徳島県も高知県に負けずとも劣らずたくさんの魅力があると思っているが、情報発信が弱すぎるのではないかな。畿内を一時支配した戦国武将、三好長慶（みよしながよし）徳島県三好市出身者が、大河ドラマでしつらえ



交通安全のお知らせ



特定小型原動機付自転車（いわゆる電動キックボード等）に関する主な交通ルールについて

令和5年7月1日から、一定の要件を満たす電動キックボード等は、特定小型原動機付自転車として、新たな交通ルールが適用されます。

※要件を満たさないものは、車両形状等にかかわらず7月1日以降も引き続き、その車両区分（一般原動機付自転車又は自動車）に応じた政令の規定が適用されます。

主な交通ルール

①車道通行の原則

原則、車道を通行し、信号を守らなければなりません（※自転車道通行可）。また、原則、道路左側端を通行し、右側を通行してはいけません。

②右左折の方法

左折時は、後方の安全確認とウインカーでの合図を行い、横断中の歩行者の通行を妨げないように注意して、道路の左端に沿って曲がらなければなりません。また、右折時は、どのような交差点でもいわゆる「二段階右折」をしなければなりません。

③通行の禁止・一時停止すべき場所

道路標識等により、通行を禁止されている道路等を通行してはいけません。

また、一時停止すべきとされているときは、停止線の手前（停止線がない場合は、交差点の直前）で一時停止しなければなりません。

④歩行者の優先

歩行者が横断しようとしているときは、横断歩道の手前で一時停止をして歩行者に道を譲らなければなりません。

年齢制限・飲酒運転禁止等

①16歳未満の運転は禁止されています。

②お酒を飲んだときは、絶対に運転してはいけません。

飲酒運転は極めて悪質・危険な犯罪です。

③スマートフォン等を通話したり、その画面を注視したりしながら運転してはいけません。

安全利用のために

交通事故の被害を軽減するため、乗車用ヘルメットを着用しましょう。

交通ルールの詳細はこちら（警察庁ウェブサイト特設ページ）



徳島県警察本部 交通企画課



営農コラム

オリーブ

営農支援課 技術主管 森 聡

オリーブを植えている洋風の家をよく見かけるようになりました。上方にすらりと伸びた枝と鮮やかな葉が美しく、四季を通じて明るく爽やかな印象を与えてくれます。シンボルツリーにしている家も多く見かけます。シンボルツリーにはすらりとした樹姿の中高木が多く選ばれますが、オリーブはまさにぴったりの樹木です。

観賞価値の高い人気の樹木ですが、実を食べたりオイルを取ったりできる果樹でもあります。塩漬けに適する品種、オイルを取るのに適する品種、そのどちらにも適する品種などがあります。オリーブの栽培の歴史は古く、5～6千年前から栽培されているといわれています。乾燥に比較的強く、地中海地域で広く栽培されています。日本では、明治時代に香川県小豆島で初めて栽培に成功し、今では瀬戸内海地域で広く栽培されています。

5～6月に白色の小さなかわいらしい花をたくさん付けます。モクセイ科オリーブ属に分類されていて、花の付き方は同じモクセイ科のキンモクセイに似て、よい香りをもっています。花後には、丸くて可愛らし

い緑色の実をつけ、赤、紫、黒色へと変化して成熟します。実はそのままでは渋味が強くて食べられませんが、渋を抜いて加工することで食べることができるようになります。

自家受粉するオリーブ品種は少なく、1本では実をつけることができません。実をつけるためには開花時期の近い2種類以上の品種を植える必要があります。風媒や虫媒で受粉し、受粉可能範囲は1～2kmのため、この範囲に別の品種があれば1本植えても受粉可能になります。9～10月に採った緑色の未熟な果実は渋抜きして塩漬けにします。オイル用に使う場合は12月頃に完熟して黒くなった実を用います。熟した実でも塩漬けに使用できます。

オリーブは日当たりを好むので、日当たりの良い場所を選んで植えるようにします。乾燥を好みますが、水切れには弱いので、水もちと水はけのよい土に植えます。

樹姿が美しく、シンボルツリーにもなり、実を食することも可能なオリーブはまさに三拍子揃った庭木といえます。



営農支援課

～珍しい野菜や今後流行りそうな野菜情報を習得～ 野菜品種勉強会

7月11日、当県本部営農支援課は株式会社竹内園芸の協力のもと、JA会館会議室で「野菜品種勉強会」を開催し、若手職員など25人が出席しました。

この取り組みは、主要品種以外の珍しい野菜や今後流行るかも知れない野菜情報などの知識をいち早く習得し、業務推進などに活用することを目的に開催されました。

勉強会では、種苗会社4社（タキイ種苗株式会社、ナント種苗株式会社、株式会社大和農園、丸種株式会社）の担当者より情報提供がおこなわれました。各担当者からは、本県での栽培が可能で有望な品種（品目）であるタマネギやスイカ、トウモロコシ、パプリカ、パパイア、ナスなどの特徴や栽培方法について説明がありました。

特に、今SNS等で話題の小玉スイカ「ピノガール」（ナント種苗株）は糖度も高くシャリ感もあり、種まで食べられるという品種となってお

り、職員は食味や食感を確認しながら担当者の説明に熱心に耳を傾け知識を深めていました。



あいさつを行う営農資材部大川亮部長



勉強会の様子

～JA全農とくしまの食育活動を紹介～

「JA全農とくしまの楽しい食育」パンフレット

当県本部企画管理課広報室は、徳島県産農産物の消費拡大や、食文化の継承を図るため、「JA全農とくしまの楽しい食育」パンフレットを作成しました。

この食育パンフレットは平成25年度から作成しており、8冊目となる今回は、SNSを利用した食育活動の紹介や、料理レシピの紹介、県産食材マップなどを掲載しています。

本年もこうしたパンフレットを活用し、食の関心に繋がる「楽しい食育活動」に取り組んでまいります。

なお、イベントなどで当パンフレットの活用を希望される場合は、企画管理課広報室（電話 088-634-2462）までお問い合わせください。



JAタウン「新鮮大好き徳島」今月のおすすめ



徳島県産なると金時



果実加工品「実生ゆず茶」と
ポン酢風調味料
「ポンジュレゆう」のセット

JAタウン「新鮮大好き徳島」では、栗のようなホクホク感と後味の良い適度な甘さが特徴の徳島県産なると金時や牟岐町産の希少な樹齢50年の「実生ゆず」を使用した果実加工品「実生ゆず茶」とポン酢風調味料「ポンジュレゆう」のセットを販売しております。

全国送料込み、消費税込みの価格でご提供しています。贈り物にもぜひご利用ください。



JAタウン「新鮮大好き徳島」
<https://www.ja-town.com/shop/c/c7001/>

新鮮大好き徳島

検索

JA全農とくしま



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックパッド



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

—私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

